地域学校協働研修会

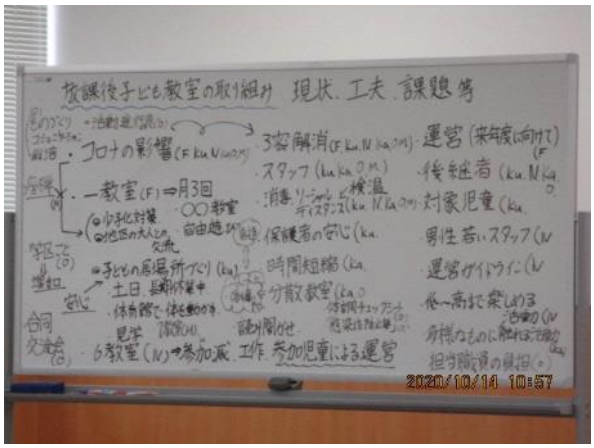
【放課後子ども教室研修会】

目　的：放課後子ども教室推進事業の先進的な実施状況を見学したり、成果や現状について協議したりするなど、実践を学ぶための研修会を行い、事業に携わるコーディネーターやボランティア人材の資質の向上を図る。

実施日：令和２年１０月１４日（水）　　**場　所**：福島市松川学習センター　**参加者**：４４名

情報交換「教えて！　聞いて！　放課後子ども教室の取り組み」

各市町村の担当者の方より、放課後子ども教室の取り組みについて、放課後子ども教室の運営方法や特色あるプログラム、今後の課題等について発表していただきました。



参加者アンケートより

○　本日の情報交換のように、各教室の課題や公民館の課題に沿う研修の内容があると、より身近に想いや考えを重ねながら研修ができると思います。今年度も大変参考になりました。

○　今後も、各子ども教室の特色ある実践事例や、その取り組みの過程も含めた情報交換をしたいです。また、ボランティアの実際の活動内容や、活動上の課題について取り上げてほしいです。

○　引き続き、各市町村の取り組みや先進事例を紹介していただきたいです。様々な実践例をあげての説明を聞いて、今後の活動に活かしていきたいと思いました。

○　各市町村の行政担当者、放課後子ども教室コーディネーター、活動指導員、安全管理員の皆様が、コロナ禍という状況の中でも、よりよい考えを出し合いながら子どもたちの安全・安心な居場所づくりにご尽力くださっていることがよく分かりました。運営の工夫や今後の課題について、共通理解を図ることができました。

講話①「豊かな放課後実現のために」

放課後 NPO アフタースクール　エリアマネージャー
村﨑　理恵氏

放課後 NPO アフタースクールは、全国の子どもたちに安全で豊かな放課後を届けるために、学校施設を活用し、地域とともに子どもたちを育てる「アフタースクール」という放課後の居場所づくりの形を提案されています。放課後 NPO アフタースクールでも各地でモデル校を運営しています。これまでの実践やノウハウを活用して、全国の自治体や各地域のニーズに寄り添いながら、その地域ならではのアフタースクールづくりの支援をするために、研修や講演等も行っています。

これまでの実践や活動が評価され、グッドデザイン賞を 4 度受賞されたほか、文部科学省「青少年の体験活動推進企業表彰　審査員奨励賞」（2016 年）、内閣府特命担当大臣（地方創生担当）表彰（2018 年）など、様々な賞を受賞されています。

本研修会では、放課後 NPO アフタースクールにおいてエリアマネージャーとして活動されている村﨑氏より、活動プログラムづくり、市民先生の探し方、安全管理についてなど、多岐にわたる内容について、放課後 NPO アフタースクールでの事例をもとにお話いただきました。

1　放課後 NPO アフタースクールについて

- 全国 21 校で、小学校の施設を活用したアフタースクールを運営している。
- ２つの基幹事業・・・①アフタースクール事業　②企業協働「教育」プロジェクト事業
- アフタースクールには、１～６年生のすべての児童が参加できる。
- 「市民先生」（地域住民等）によるプログラムを通して、アフタースクールが子どもたちの安心安全な居場所となり、自己肯定感を育む場所となることをめざして運営している。

2　子どもたちの放課後を豊かにする必要性

- 昔・・・子どもたちは「地域」で育つことができた。
- 現在・・・３つの「間」（時間・空間・仲間）が失われてしまった。
  放課後は子どもにとって危険な時間帯である。
  「働きたい」親に立ちはだかる壁がある。
  自己肯定感の低い子どもたちが増えている。
- 放課後の時間を算出すると、低学年は年間約１６００時間、中～高学年は約１２００時間ある。これだけの時間があるからこそ、思いっきりそれぞれが好きなことができる、子どもが成長できるチャンスを作ることができる。
- 放課後の価値とは、「自由」「創造」「協働」である。
  →現在の状況での「ピンチ」を「チャンス」の時間にするという発想の転換を。
- アフタースクールで叶えたいことは、
  「多様性を認め合う社会、教育環境づくり」
  「子どもの可能性が広がる環境づくり」
  →ピンチの時間を、自分の好きなことや得意なことを見つけて伸ばす時間や、自分に自信がもてる時間にしたい
- また、大切なのは「大人も子どもも」豊かであること。子どもだけでなく大人にとってもそれがいい時間となることが重要である。

村﨑理恵氏

３　アフタースクールの事例紹介　～子どもが自発的・継続的に取り組む仕掛け～

①　子ども会議（子どもの声を聞こう！）

（例）　「作品展示のルールを決めよう」「夏休みにやりたいことを決めよう」

〈成果〉　大人が思いつかないような企画を子どもが考えるのも魅力の１つである。

②　駄菓子おやつ DAY・・・長期にわたっての取り組み

自分でおやつを選ぶことを楽しむ→子どもたちが「駄菓子やさん」になる

→販売の工夫を考える→チーム制にして協力する

→チームの人と話し合って決める（売り上げの目標設定、作戦会議等）

→いつもの作業を応用する（ハロウィン WEEK に向けて店員が仮装するなど）

〈成果〉　子どもたちはこれらの活動をすることが大変であると分かっている。でも、目的があるから率先して行うことができるようになる。

③　スペシャルウイーク

（例）　「工作 WEEK」「プラレール WEEK」「みんなで協力！巨大アートを楽しもう」など

〈成果〉　１日だけでなく、続けて毎日できることが子どもたちにとっていい影響となる。

④　放課後ラボ　～やりこむ×探求×遊びこむ～

（例）　「STEAM ラボ　企業×地域」「サマーフェス」

「きっかけ」（興味の幅を広げる多様な体験プログラムを行う）

→「好きになる・自主的に探求する」（探求・ラボ活動継続プログラム）

→「成果発表」（発表会・大会）

〈成果〉
- 発表会を行うことで、子どもたちが保護者や友達からのフィードバックや反応を直に感じることができた。
- 「どうやったら動かすことができるのか」と子どもたちが自分で考える力を身につけることができたのが収穫だった。
- 地域のプロの技を子どもたちが見て、自分たちなりに構想を練っていた。

４　これまでの取り組みを通して

- スタッフは、「子どもたちがやりたいことを、どうやって実現するか」ということだけに関わるようにしている。子どもたちの自主性・創造性を大切にしている。
- 昨年度の取り組みを見ている子どもたちが、次に取り組む時にさらに創意工夫を重ね、パワーアップさせる。続けていくことに意味がある。
- いろいろな体験を通して、子どもたちの自己肯定感をアップさせることで、子どもの得意を伸ばし、「やりたい」を叶えていく。そのためにプログラムを設定していくことが大切である。

講話②「安心・安全な放課後子ども教室づくり」

放課後 NPO アフタースクール　エリアマネージャー

村﨑　理恵氏

1　市民先生の探し方

- 「市民先生」とは？
  「子どもたちのために知恵や経験を生かしたい」という思いを持っている保護者・地域の方などすべてが「市民先生」。専門的な知識や資格がなくてもよい。
- 市民先生の探し方
  ①　特技を持っている知り合いの方
  （例）パン教室を開いている人、裁縫教室、学校の先生など
  ②　保護者・・・特に、自営業の方や特技を持っている方
  （例）学校のクラブチームのコーチボランティア、建設業の方、お茶や生け花の師範の方
  ③　地域の教育機関や企業
  ④　公民館や地域活動センター（行政）
  ⑤　〇〇協会
  （例）レクリエーション協会、日本折紙協会　等
  →協力してほしい方がいたら、名刺・チラシ等を渡す。
  意識して「声をかける」。

- 「地域の大人を巻き込む」ことのメリット
  ①　大人も元気になる！
  ②　大人の視野も広がる！
  ③　大人の自己肯定感も上がる。
  ④　豊かな未来（地域）に繋がる第一歩。
- 子どもたちを取り巻く「市民先生」たち・・・地域といっしょに子どもを育てる
  学生、市民、先生、子ども教室等のスタッフ、保護者、地元企業、行政、地元 NPO など
  →放課後 NPO アフタースクールの格言「人と会ったら市民先生と思え！」
- 「市民先生ツリー」というフォーマットを用いて、どんな方に協力していただけるかを考える。
  ※　実際に研修会参加者もワークを行った。

（参加者の感想）
- 隣の子ども教室のスタッフの方と交流し、スタッフを入れ替えることも可能ではないかと考えた。子どもたちにとっては、新鮮だと思う。
- 何でも一人（自分たち）だけでやろうとするには、限界がある。この方法も活用しながら、協力していただける方を探していきたい。

- 放課後づくりで重要なことは「たくさんの大人と出会える、たくさんの応援者がいる環境をつくる」ことである。

２　子ども対応について

- 　子どもと接するときに気をつけること
  →「笑顔」「いい事、悪い事をはっきりと」「よく観察する」「目線を合わせる」
- 　子どものトラブル
  →「怒る≒話を聞く」であることを知る。家で叱られ慣れていない子どももいる。「分かりました」と言っても、子どもが本当に納得しているとは限らない。
- 　子どもに注意や指導をするときに、「ルール」を基準にしていることがあるが、本当に守りたいもののために、そのルールは本当に必要なのか考える。最近は、ルールを気にしすぎる子どもが多すぎる。「ルールさえ守ればいい」という指導ではなく、ルールが適切か、何を大切にしなければならないのかを子どもたちと考えることが必要。

３　感染症対応

- 　嘔吐物などをすばやく処理できるように、日頃から準備しておく。
- 　新型コロナウイルスに対する対応
  ①　環境衛生管理・・・清掃、換気、参加児童の人数、ソーシャルディスタンス
  ②　参加者（児童）の健康チェック・・・受け入れ時の健康観察、活動中の感染予防対策
  ③　活動内容について・・・講師によるプログラムについては学校・講師と慎重に審議する。
  ④　活動時間・・・感染症予防のために、活動時間は４０～５０分までにする。
  ⑤　外遊びについて・・マスク着用は、学校のガイドラインに準じる。活動終了後の手洗い。
  ⑥　活動前の健康観察
  　・・・健康状態に問題がある児童がいたら、活動場所ではなく、指定の場所へ移動させ、保護者に連絡し、安全に帰宅させる。

４　見えない部分のケアを

- 　重要なのは、子どもの「心のケア」である。ストレスを発散させること、環境の変化を理解することが大切である。
- 　家庭環境や学校内での過ごし方が大きく変わっている今、放課後に関わる私達が子どもに寄り添ってあげるようにしたい。

（5）　閉会

参加者アンケートより

○　子どもたちが、意欲的に、自信をもって、思いやりの心で他者との関わりを大切にして、人生を楽しめる大人に成長するために環境づくりができると思いました。大変勉強になりました。

○　あらためて、子どもたちの放課後の活動や生活の充実が、子どもたちの健全育成に欠かせないものであると分かりました。大人のネットワークをうまく活用し、連携した取り組みができればと考えました。本当にありがとうございました。

○　大変勉強になりました。放課後 NPO アフタースクールの活動はとてもすばらしいものばかりでした。全部とはなかなかいきませんが、できることはぜひまねをさせていただきたいと思いました。

○　子ども対応については、毎日悩んでいる状況ですが、今回の講話を聞いて、自分の対応について、もう一度考え直してみようと思いました。安全管理についてもどうすればいいか分からない中で、他の方がどのようにしているのかを少しでも知ることができて良かったです。

○　午後からオンラインで参加しました。コロナ対策をしながら、子どもたちと楽しい時間を過ごせるようにしていきたいと改めて感じました。

○　これから活動するにあたり、不安が少しやわらいだように思います。消極的だった気持ちが、活動に対して少しやる気が出て、積極的になりつつあります。

○　たくさんの事例を紹介していただき、とても参考になりました。学童クラブの事情もあるので、なかなか実行できないことも多いかと思いますが、よりよい放課後を実現するためにできることから１つ１つ実践していきたいと思います。

○　とてもよかったです。市民先生を見つけて、子ども教室を充実させたいです。

○　他市町村の事例や村﨑先生の講話を通し、これからの教室運営に活かしていきたいことが多かったので、勉強になりました。

○　これまで県北地区内の放課後子ども教室を訪問させていただいている中で、関係者の方から「プログラムがマンネリ化している。子どもたちが興味を持って活動する魅力あるプログラムづくりについて知りたい。」という声を多数いただいておりました。そこで、本研修会では、講師の村﨑氏から、「子どもたちが主体となってプログラムを考える」という事例について紹介していただきました。村﨑氏からは、いきいきと活動している放課後 NPO アフタースクールの子どもたちの姿とともに、子どもたちの思いや行動を引き出すための仕掛けや、スタッフと子どもたちが活動をつくりだしていく過程についてご説明いただきました。子どもたちのアイディアをプログラムづくりに反映させることは、子どもたちの主体性や創造性を育む有効な方法であると考えます。研修会の参加者の方からも「取組事例が参考になった」という感想が多数寄せられました。今後、各地の放課後子ども教室で、子どもたちの主体性を育成する取り組みとして参考にしていただければと思います。

○　現在、放課後子ども教室に携わる方々の多くは「新型コロナウイルス感染予防対策」「コロナ禍の中での活動プログラムのあり方」「児童対応」「協力してくれる人材をどのように確保したらよいか」ということについて課題意識を持たれています。研修会の中で、これらの解決策のヒントになる内容について、村﨑氏より大変参考になるお話や情報提供をいただきました。「これからの活動のヒントをたくさんいただいた」研修会となりました。

○　今回の研修会には、学童クラブの関係者の方も多数おいでくださいました。今後も、よりよい放課後の過ごし方について提案できる内容を研修に取り入れ、様々な立場の方が子どもたちの放課後の過ごし方に関心を持ち、多くの大人の目で子どもたちを見守ることができるようにしていきたいと思います。